

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業 「学習成果発表の場事業」
「歴史講演会 日韓の現代史を探る」を開催しました。

平成30年6月30日、講師に浅井能延さんをお迎えして「歴史講演会 日韓の現代史を探る」の講座を開催しました。朝鮮半島の状況が目まぐるしく変わる昨今において、まさにタイムリーな題材であったこともあり、約80名の受講者の参加でした。

今回の講演の焦点であります「日韓の現代史」ですが、それを語る上で長い日韓の歴史を探る必要がありました。古くは元寇があり、豊臣秀吉の朝鮮出兵、江戸時代の朝鮮通信使、明治時代の朝鮮半島への政治介入、日韓併合などを順次解説され、戦後の日韓関係へと講演は続きました。



戦後の日韓の大きな事件として、李承晩ライン、日韓基本条約、金大中事件、文世光事件、朴大統領暗殺事件、光州事件を順次解説され、それぞれについて、パワーポイントを使用した資料を正面スクリーンに映され、非常にわかりやすく、また興味深く話されました。

特に独自の視点で解説されたのが、竹島と従軍慰安婦の問題でした。竹島問題については、韓国と日本の両方からの視点で話され、そういうことも大切なことであると気づかされました。従軍慰安婦の問題は慰安婦がいたことは事実であったが、それに軍が直接関与していたかは疑問が残る、とのお話でした。平成28年の慰安婦問題の日韓合意により、慰安婦問題は最終的に不可逆的に合意したので、これからは、日韓は合意を遵守し未来永劫の日韓関係を築くことが大切である、と説明されました。



講演後、質疑応答の時間が設けられましたが、時間の関係で1名の方の質問を受けられその内容は、やはり大きな焦点でもあった「竹島問題」と「従軍慰安婦問題」でした。いろいろな見方、考え方のあることを踏まえて、丁寧なお答えをされました。歴史を検証しながらこれからの日韓関係を考えさせてくれた講演であったと感じました。